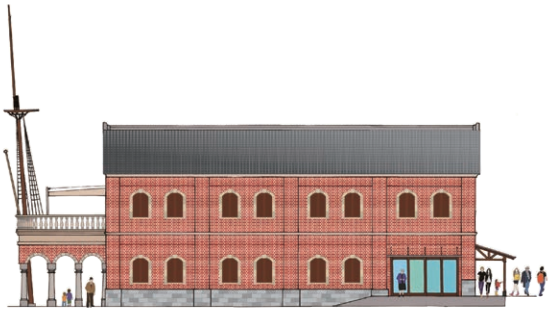
明治維新150周年

薩摩スチューデントと明治維新

第26回 森と松村

ロシア旅行②



薩摩藩英国留学生記念館（☎35-1865）

●ロシアまでの船旅

八月八日、ロシアへ向けて出航した森有礼と松村淳蔵は、この機会を利用して航海訓練を受けます。元々二人は、海軍の勉強をするよう命じられていました。

航海は難渋し、船酔いに悩まされますが、波が穏やかになると、訓練が始まりました。

八月十九日、森がマストに登ると、遠くに円く弧を描くフィンランドの青い大地が見えてきます。感動した森は、松村に対し「来れ来れ、はじめて地球の円なる証を得たり」と告げます。すると、松村もマストに登り「奇かな奇かな、真に然り然り、初めて知れり知れり」と同様に地球が円形であることを確認したのでした。二人の言葉から地球が円いことを初めて目の当たりにしたことに対する驚きと感動が目に浮かびます。

八月二十三日、目的地のクロンシュタットに入港します。湾内は商船と軍船で混雑していましたが、ひときわ大きいアメリカの鋼鉄船トリッドシップ号の姿に驚きます。

●幕府留学生

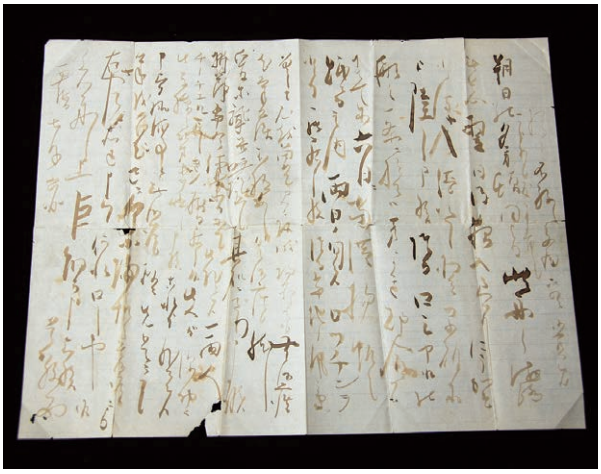
翌日、二人は首都のサンクトペテルブルグに着くと、幕府の留学生六人に会いに行きます。幕府留学生のメンバーは山内作左衛門、緒方城次郎、市川文吉、大築彦五郎、小沢清次郎、田中二郎の六人で前年に函館を出帆し、喜望峰回りで半年かけてロシアに到着していました。それから、密航者でロシア外務省に勤務していた元掛川藩士の立花久米蔵や諸外国の外交官に接見し、ロシアの国情について教わったのでした。

短い期間ではありましたが、森たちのロシア理解は一段と進みました。

森はロシアの印象を次のとおり紀行に書いています。「ロシアはツアーリズムの下で貧困であり、西欧諸国に比べて遅れている。また、ロシア人は木訥だが、教養が無く、皇帝のいいなりである。不倫が横行し、みなし子が増えていたため、これでは社会の秩序が成り立たない」

君臣、男女の協力、教育の必要性を痛感した森は、後に明治政府の一員となると、このことを柱に政策提案をします。

また、森は松村と連名でロシアから旅行中に感じたことをロンドンにいる町田久成宛に手紙を通じて伝えました。薩摩藩英国留学生記念館の2階では、その手紙を展示しています。



町田久成宛森有礼松村淳蔵書簡（町田忠夫氏所蔵）

次回、5月21日号は「森と松村　ロシア旅行③」です。

来館者15万人達成

～薩摩藩英国留学生記念館～

3月29日に15万人目の来館者となったのは、鹿児島市からお越しの添田香予さんでした。郷土の偉人を学ぶため家族と一緒に来館したということですが、「今日は誕生日。ビッグサプライズで、すごく嬉しいです」と、感想を話しました。

チャレンジ農業♡
おごじょ塾通信

農政課（☎33-5635）

～第18号～「夢へチャレンジ」

いよいよ３年目を迎える「チャレンジ農業♥おごじょ塾」。塾生の中には、自分の夢へ向かって果敢にチャレンジを続けるおごじょ達がいます。今回はそんなおごじょを紹介します！

女性と農業で地域を元気に！～起業への想い～

池田郁代さん

おごじょ塾の第１期から参加しています。驚いたのは、農業に関心がある若い女性が多いことです。これからの時代、農業分野における女性の役割はとても重要だと感じます。

しかし子育てとの両立等、なかなか難しいのも現状です。そこで私はおごじょ塾生や地域の女性が仕事として「農業」を選択できるよう、市のおごじょ塾から一歩踏み出した新たな会社「おごじょ倶楽部」の設立を目指しています。

私は３年前に名古屋からUターンし、実家のみかん店を引き継いで経営しています。経営に携わって感じたことは、本市特産のかんきつ類が、全国的にはあまり知られていないことです。同時に後継者がいない果樹農家が多いことを知り、こんなにおいしいみかんが食べられなくなるかも知れないという危機感を感じ、祖父母たちが苦労して開墾したみかん畑を後世に残していきたいと強く思うようになりました。

「おごじょ倶楽部」では、おごじょ塾生や地域の女性を雇用し、まずはみかんの生産活動に取り組みます。高齢で生産ができなくなった農家から畑を借りて、先輩方から指導を受けながら果樹生産に取り組みたいと思っています。また、販路拡大・収入確保のために、農産加工にも挑戦します。昔ながらの加工品は「継承」し、時代に沿った「変化」を加えながら、本市の農産物を全国にPRできるような活動を目指します。

農業を通して「女性が精神的に自立し、自分自身のために生きられるまち」になるよう、夢に向かってできることから挑戦していきます!!

～おごじょ塾番外編～

森からの恵み「特用林産物」を知ろう！

「特用林産物」という言葉を聞いたことはありますか？「特用だから何か特殊な、めずらしいものをいうのかな？」と思う方もいるかもしれません。

実は「特用林産物」は私たちの身の回りにたくさん存在しています。その代表が「きのこ」です。ほかにも、竹の子やわらび、タラの芽などの山菜、くりやぎんなんなど、森で生み出された恵みのうち、木材以外の生産物は「特用林産物」と言われています。

昔から日本の風土に根付き、日本人の生活の身近にあった森の恵み「特用林産物」。近年ではその魅力や価値が改めて見直されています。

収穫の日を夢見て♪「しいたけ駒打ち作業」に挑戦！（２月２８日）

野菜だけでなく、きのこも庭で自家栽培できたら、何て素敵なんだろう…♪

しいたけ好きなおごじょ達が集合して、しいたけの駒打ち作業に挑戦です！

穴をあけた原木に金槌を使って「トントントン♪」とリズム良く駒打ち作業を行います。

約１メートルのクヌギの原木に約15㎝間隔で穴をあけていきます！

しいたけの「種駒」⇒しいたけ菌がびっしり！

収穫の喜びを味わえるのは、何と約２年後！！！とても待ち遠しいですね…それまで、じっくりじっくり夢を温めながら、しいたけの生長を見守ります♪

H29 おごじょ塾閉講（H30.3.8）

おごじょ塾第２期生の２３名が、１年間の全過程を修了しました。おごじょ塾で学んだことを活かし、今後もおごじょパワーを全開させて、それぞれの夢に向かって進んでいきます(*^_^*)！！

新年度の新たな出会いを楽しみに…「チャレンジ農業♥おごじょ塾」は、これからもますますパワーアップしてチャレンジを続けていきます♪

いちき串木野
明治維新150●周年

西郷どんと行く！

いちき串木野
幕末・維新
ゆかりの地めぐり

其の3 「西郷隆盛が書いた招魂社の額」

観光交流課（☎33-5640）

慶応４年・明治元年の明治戊辰の役で戦死した麓地区の７名を祀る「招魂社」は、昭和２１年に浜ヶ城に移転され、現在の串木野神社に改められました。この招魂社に揚げられていた社号額は西郷隆盛が書いたものと言われています。額の裏面には、「明治七年申戌七月　正三位　陸軍大将西郷隆盛公書・・・」の後に長谷場純孝氏をはじめとする麓地区８名の名前が記されています。この８名が西郷のもとを訪れ、直接揮毫を依頼したものと伝えられています。

現在、この額は加藤正徳氏宅（麓地区）の私設歴史資料館に収蔵されています。

西郷隆盛が揮毫したと伝えられる「招魂社」の額

問合せ いちき串木野市総合観光案内所 ☎32-5256　いちき串木野市総合観光案内所　検索　http://ichiki-kushikino.com/

焼酎（そつ）とも

食のまち推進課（☎33-5621）

～あなたにとって最高の「焼酎とも」は何ですか？～

「焼酎とも」とは、だれやめで食べる焼酎の"おとも"のこと。毎月一人、だれやめを愛する"勧めびと"に「焼酎とも」を紹介してもらいます。

第12回 かるかん

「まだまだ焼酎勉強中！」～地域おこし協力隊 タカシマの取材後記～

「お酒を飲んでいる時に、甘いものを食べたくなって家にあった、かるかんをつまみにしてみたら、メッチャ美味しかったんですよ！！」かるかんが焼酎ともと聞いて驚きましたが、「自然薯のもっちりした食感、濃厚なあんこの甘みのバランスが絶妙で、焼酎の水割りがよく合います」とかるかんを推します。一方、焼酎の香りを楽しむお湯割りには、あまり合わないとのこと。みなさんも、「スイーツで焼酎」試してみませんか？

今月の勧めびと
前田 祐衣さん
職業：病院勤務
水割り（焼酎６：水４）

シリーズ10
環境維新のまちづくり

政策課（☎33-5628）

～エネルギービジョンを策定しました～

昨年度、太陽光発電や風力発電といった再生可能エネルギーの導入目標やこの先10 年の間に取り組むべき具体的方策を明らかにするために、「いちき串木野市地域創生エネルギービジョン」を策定しました。

このエネルギービジョンの目指すところは、再生可能エネルギー導入によって、新産業を創出したり新しい市民サービスを提供したりすることで、市民生活の向上や産業の振興を図り、持続可能なまちをつくることです。

今後はこのビジョンに基づいて、事業化の可能性が高い事業について㈱いちき串木野電力や再生可能エネルギー関連事業者と連携をとり、計画的に実施していくこととしています。

詳しくは、今月の広報紙と一緒に配布している「『いちき串木野市地域創生エネルギービジョン』概要版」または、市ホームページの「『いちき串木野市地域創生エネルギービジョン』報告書」をご覧ください。

いちき串木野市地域創生エネルギービジョン　検索

第十二回

電気の単位(V)「ボルタさん」のおはなし

電気の単位であるワット(W)、アンペア(A)、ボルト(V)って聞いたことありますよね？これらは全て、実在した人物の名前から採られているんです。最終回はボルタさんのおはなしです。

1745年イタリアのコモで生まれました。コモ王立学院の物理教師をしていた29歳の時に、「電気盆」を考案したことでヨーロッパに名を広め、1775年コモ大学の物理学教授になりました。
※「電気盆」は手動で硫黄球を摩擦して静電気を得るゲーリッケさんの「起電器」よりも効率よく電気をつくって運べる装置。
画期的な発見をたくさんしている中でも最も評価されているものが1799年の「ボルタ電池」と1800年の「ボルタ電堆（でんたい）」の発明でした。（これらは、まとめてボルタ電池と言われることも多いようです）。
ボルタ電池を発明した、彼の名にちなんで、電気を押し出す力をボルト（V）と呼ぶようになりました。
ボルタさんは、尊敬していたナポレオンの前で実験を見せたり、今までの業績に対して彼からメダルをもらったりもしています。

電気を押し出す力＝電圧を表す単位が(V)ボルトです。
電圧が高いほど多くの電気が流れます。
家庭用の電圧は一般的には100V、工場などの生産機械には200V以上が使われています。

Alessandro Volta
(1745～1827)
アレッサンドロ・ボルタ

〈最終回となりました。ご覧いただきありがとうございました！〉

株式会社いちき串木野電力はいちき串木野市が出資している地域電力会社です

●電話：３３－６０００
●ホームページ http://www.ik-epco.co.jp
●所在地：昭和通１１１(串木野庁舎前)
●土曜日も営業しています！(9:00～17:00)※日・祝休み